

高曉声の略歴と作品

天野 節

I 高曉声（1928年—1999年）経歴

高曉声の経歴については、自著(1)、また他の人によって書かれたもの(2)がかなりある。ここでは、筆者が1989年1月23日から25日まで、常州市にあった高曉声の自宅(3)を訪問した際、語ってくれたことも併せて略記する。

1928年7月6日：江蘇省武進県鄭陸郷董墅村に、父高涯専、母玉桂英の長男として誕生。姉1人、妹3人。弟鉄生は夭逝した(4)。彼の幼い頃、家には9ム一余りの土地があり、三間の瓦屋根の家に住んでいた(5)。父は、大学卒業後、“語文”教師となった。だが、仕事があつたりなかつたりで、野良仕事も不得手であり、その上、生まれた子どもも多く、家庭の内情は非常に苦しかった(6)。1986年、89歳で死亡。高曉声の実母(7)は、彼が13歳の時、1941年に死亡。

1933年9月：5歳で(8)鄭陸小学校入学。この時、彼の実母は、鄭陸鎮にある漢方薬の店をしていた実家に彼を預けた。彼が学校に通うのに便利なのと経済的に家の負担を軽くするためでもあった。この町には、「連環画」の貸本屋があり、彼は学校から帰ると祖父に2枚の銅貨をせびっては、その店の敷居の上に坐りこんで日が暮れるまで読み耽ったという。夏休み、冬休みに家に帰ると近所の子どもに自分が読んだ物語を語り聞かせ、途中、話の筋を忘れてたりすると、別の物語の筋を継ぎ足したりした。自分は天才だくらいに感じ、将来物書きになっても良いかなと思ったと言う。しかし、抗日戦争が始まり、小学校を卒業せず、父が教鞭をとる私塾に2年通う(9)。

1941年9月：13歳で初級中学、澄西中学入学(10)。この年、母が死亡（彼は「13歳の時だ」と語っている）。弟鉄生は、その時1歳で、まだ母親の腕の中におり(11)、その後まもなく読んだ鄭板橋(12)の詩、題名は忘れたが、次のような詩に

痛く感動し、文学と離れられなくなった」と語る。

我生三歳我母無 叮嚀難割襁中
登牀索乳抱母臥 不知母歿還相呼(13)

1944年夏 : 澄西初級中学卒業。

1945年春節以後 : (資金がなく中学卒業後直ちに高校に入学できなかったため) 澄西中学の
高級中学1年2学期(「上学期・下学期」の2学期制)に入学。

1947年夏 : 同校に2年半勉強しただけで卒業。

1947年末 : 大学受験するが不合格(14)。この時、自分では文学部に入学したかったが、
父親は、文学部では飯は食えないから、工学部に入れと言ったそうである。
不合格は予想していたそう。あらゆる中学では、日本語の授業があり、
澄西中学でもあったのだけれど、日本語を学ぶということは、「最後の授
業」(15)に描かれているような文化侵略であると考えていたので、3年間
勉強したが「あいうえお」も憶えられず、さらに英語の成績も思わしくな
く、結局、外国語の成績が悪かったからだと言う。

1948年春節後 : 上海にあった私立の上海法学院経済学部(1983年当時には華東財經学院)
(16)でおよそ1年あまり経済理論を学んだ。

1949年6月初め : この年の5月初め、大学の経営が行き詰まり、共産党も侵攻し、国民党は
すべての学校を解散させたために、学生たちは帰郷せざるを得なくなった。
彼もこの時帰郷、共産党の活動に参加した。そして、共産党が運営してい
た1年制の革命学校である無錫の蘇南新聞専門学校に入り勉強した。

1950年5月 : 蘇南文聯に配属。以後、1952年末、蘇北と蘇南が江蘇省となり、江蘇省文
聯で1957年まで仕事をした。

1957年 : 陳椿年等と“探求者”という「文学社」、同人雑誌を始め、高曉声がその
呼びかけ文を執筆した。これらの主張が反党グループを作るものだとされ、

“右派”の烙印を押されてしまった(17)。そして、農村に帰されることになった。

1958年3月10日：南京の江蘇省文聯から生まれ故郷の常州市武進県に帰る。この時には、住居は元の自分の家、父と3度目の母（義母）それにその娘（義妹）がいた。人民公社が成立していて、家の耕地は集団所有制に組み込まれていた。この1ヶ月後、かねてからの恋人であった無錫の鄒主平が、彼の制止するのもきかず彼のもとへやって来て、結婚生活をするようになった。彼女は体が弱く肺結核にかかり、結局、1959年の春、亡くなった。58年末から59年初め、中国経済が益々悪化した上、右派の烙印を押されてからの生活は非常に貧しいものになり、栄養のある食べ物を食べられなかったからだという。帰郷してからの日々は、毛沢東語録にあるように、「右派は反動派」で人民の敵だから監督され労働するというものであった。この間の情況は、彼の長篇小説「青天在上」（小説界文庫長篇系列「青天在上」上海文芸出版社1991年2月第1版）に結実しており、これを通して推察できる。しかし、彼が送られたのは、生まれ故郷であったから、ここでの生活は普通の農民と比べてそれほど悲惨なものではなかったと語る。1979年3月21日まで（3月23日午前7時南京着）(18)生活した。故郷の農村に送られてから、21年と11日間である。

1962年：1964年まで武進県三河口中学で“語文”教師。

1965年：肺結核が悪化（1950年代に彼は肺結核で入院し治療を受けている。）、入院し手術を受けた。退院休養している時、「文化大革命」が始まった。

1968年：学校に連れ戻され、批判闘争を受ける。

1968年末：1970年春まで再び農村に送られ労働。

1970年：学校には戻されたが、教師に復帰したのではなく、他の労働に従事した。

1972年春節：武進県孝都公社の農民、錢淑珍と結婚。彼女は、3人の娘を連れての再婚であり、後に高曉声との間に男の子が生まれる(19)。

1972年春 : 地方政府が、三河口公社に農業用の微生物工場始め、そこの技術者となり、1979年南京に行くまでここにいた。生まれ故郷の農村と農民に別れを告げ、南京に向かう実際の行動を踏まえて、短篇小説「系心帯」が書かれた。その後、作家活動を再開し、1979年に「李順大造屋」が、1980年に「陳奐生上城」が、「全国優秀短篇小説評選獲獎作品」になった。また、江蘇省文聯の副主席という要職についた。

1999年7月6日：無錫人民病院で死去。享年71歳。

注

- (1)「曲折的路」(四川文学1980年第9期。ここでは「生活・思考・創作」上海文芸出版社1986年8月第1版掲載のもの)、「初中二年半」、「三上南京」(ともに散文集「生活的交流」中国文聯出版公司1987年4月第1版に所収)等。
- (2)「“探求者”的今昔——高曉声剪影 徐忠明」(「中国当代文壇群星二」北岳文芸出版社1987年12月第1版)、「当代中国文学鑑賞辞典」遼寧人民出版社1992年8月第1版 p 161、「中國文學大辭典」上海辞書出版社1997年7月第1版 p 1594等。
- (3)1989年の時点で高曉声の自宅は、江蘇省常州市桃園新村20幢(丙)204室にあった。
- (4)1989年1月、高曉声自身談話。この中で誕生日については、公的な届は7月8日(旧暦1928年5月21日)となっているが実際は7月6日であると語っている。
- (5)注の(1)にある「初中二年半」には、「働き手の不足した中農」(「生活と交流」p18)とある。「9ムー余り」というのは、60a余りで日本の6反余りである。住居は、「三間の瓦屋根」、しかも、父が大学を卒業して農作業に本格的に関わらず、“語文”教師だったという。石田浩著「中国農村経済の基礎構造—上海近郊農村の工業化と近代化のあゆみ」晃洋書房1993年2月20日初版第1刷発行p17所載の「第5表土地改革期における唐家村各自然村別農家経済基本状況(258戸)」から、“中農”の例として拾い出してみると一家族数3人、3人、4人に対し土地所有面積、家屋数はそれぞれ15.28ムー、3間、10.21ムー、2間、8.90ムー、3間—という農家があり、上海の近郊農村とほぼ同じような状況であったことがわかる。「苦しいとも言えないし、楽だとも言えない。」(上記

- 注(1)「曲折的路」 p 1) 家庭状況であった。
- (6)注(1)の「生活・思考・創作」 p 1 第11行。
- (7)高曉声の父は、前後3回結婚した。最初の結婚で姉が生まれ、2回目が玉桂英すなわち高曉声の母で、弟鉄生は実の弟、それに実妹が2人。三回目の妻に1人の義妹ができる。
- (8)「曲折的路」 p 1、「生活的交流」の「初中二年半」 p 18。
- (9)「生活・思考・創作」 p 1 第11行～。
- (10)江陰から40里余り離れた西郊にあった。学生数は200人に満たなかったが、抗戦中の澄武地区（地域名、武は武進県ではないかと見られる。澄は、未調査）が始めて創立した初級中学校で、地域に相当な影響力があり、高曉声と同世代の知識人を育成しようとしたものらしい。生徒の中に卒業しては革命に参加して行くものがいたのだ。（「生活的交流」の「初中二年半」 p 18第10行～）この澄西中学での様子を高曉声は、次のように述べている。政治的に結構複雑な様相をしており、「新四軍あり、国民党の様々な邀撃隊までいて、学校の教師は大方国民党に傾き、生徒たちに最も人気があるのは新四軍であった。それでも抗日では一致していて学校から漢奸を出したことはなかった。日本軍どもはこころを制圧する力はなく、しばしば出し抜けて掃討にやってくる。殺火をやらした。私たちの学校も重要な掃討の目標だった。ある晩目覚めると、起床の鐘が鳴らぬうちに銃声が響き、奴らの奇襲があり、学校が包囲された。そして私たちは捕虜になって生死は奴らの手に握られ、学生や教員の中には日本軍に殺されたものがあつた。」（同 p 18第15行～ p 19第8行）
- (11)「生活・思考・創作」（p 3第4行～7行）に「その時私は満14歳になったばかりで一中略一特に2歳の弟鉄生は一後略」とあり、「生活的交流」の「初中二年半」（p 20第15行～第20行）には、「私の父が学校にいた時、一中略一43年の初め一中略一けれど思いがけないことにちょうどこの年の8月、母の病気は治らず、母は私に永久の別れを告げた。」と書かれている。1943年は、彼が15歳の時である。また、「生活的交流」の「我的家郷金三角」（p 142第15行）には、「41年に私の母は病に倒れ、長い間金もなく医者にもかかれずとうとう亡くなってしまった。急に棺桶を買う金が必要になり、やむなく業者に足下を見られて買い叩かれて、1ム一の耕地を棺桶代に変えた。その後中2、

中3と着替えもなくなり、すべて同級生から借りることになった。」とあり、これだと、彼が13歳の時である。だから母の死は実際何年なのか定かではない。書かれたものは、正確な事実とは限らず、創作である可能性もあるので、著者が直接語った年に従っておく。

- (12)鄭燮(1693~1765)、字は克柔、江蘇興化の人。福本雅一「鄭板橋詩鈔」(同朋出版1994年)によると、「興化は清代、揚州府の属県の一で、現在の揚州の東北約80キロに当たり、その町には鉄鄭、糖鄭、板橋鄭と称する三鄭氏があった。彼が板橋と号するのは、その出自をいうのである。先祖は明初に蘇州から移って来たといい、系譜は詳しく分からない。」「父の之本は村童を教えて生計を立てていた。いわば私塾の先生である。」「板橋が生まれた時は、彼の家庭は衰落し、生母は四歳の時に亡くなり、彼は乳母の費氏によって育てられた。十四歳には継母の郝氏もまた世を去り、彼は孤独と貧苦の中で成長した。」(以上p1)また、彼の作品について「最も突出しているのは、強烈で真摯な『民胞物与』——張載『西銘』の『民は同胞(はらから)、物は吾が与(とも)也』——という感情である、といわれている。特に詩は、すべて現実を反映したもので、言葉には内容があり、表現には感情がこもっている。」(p16)という。

- (13)前掲「鄭板橋詩鈔」によれば、この詩は、杜甫の「乾元中寓居同谷県作歌」七首に倣い作られたといわれる「七歌」の「其二」冒頭の四句である。「其二」全体は以下の通り。

我生三歳我母無	私が生まれて三つ、私の母が亡くなる時、
叮嚀難割襁中孤	ねんごろに頼んだ、手離せないねんねこの幼児を。
登牀索乳抱母臥	ベッドに登って乳を求め、母を抱いて臥し、
不知母歿還相呼	母が死んだのも知らず、まだ呼びつづけた。
兒昔夜啼啼不已	兒(わたし)は昔、夜啼きし、啼きやまずにいと、
阿母扶病隨啼起	母は病む身を支えながら、啼くたびに起きた。
婉轉襖撫兒熟眠	抱きよせあやし撫でると、ぐっすり眠ったが、
燈昏母咳寒牕裏	灯は暗く、母は寒い窓辺で咳きこむ。
嗚乎二歌兮夜欲半	ああ、二歌すれば※、夜もふけようとするが、
雅棲不穩庭槐斷	庭の槐(えんじゅ)の枝が折れると、宿る鴉もおちつけぬ。

(上記p24~)

※「二歌すれば」は、其一には、「一歌すれば」で、其三は、「三歌すれば」と対応させてある。「ふたつとセイ」に相当するのかも。(引用者注)

(14)南京の中央大学（「生活的交流」の「三上南京」 p71第2行）。公立の大学で「生活的交流」 p20）、工学部であったという（「生活・思考・創作」 p4）。

(15)Daudet Alphonse（1840年—1897年）というフランスの小説家の作品。

(16)高晓声会見記（1983年8月26日）辻康吾「中国月報」434（'84. 4）

(17)「生活・思考・創作」所載の「曲折的路」（p5第22行～p6第17行）に以下のように書かれている。

那时候我学习写作各种形式的作品，如诗、说唱、短篇小说、歌剧、电影剧本。当时受到读者欢迎的是短篇小说《解约》和大型锡剧《走上新路》（和叶至诚合作）。这些作品，基本上是继承了现实主义的传统。但它反映的是社会主义生活，基调是开朗的，方向是明确的。这些作品也反映了我当时思想比较单纯，对党对社会主义完全是一片赤诚之心。但人总是在进步之中，随着政治思想水平的逐步提高，随着对社会生活了解的逐步深入，我开始认识到，社会主义社会虽然当代世界上最美好的制度，有着无限生命力的制度；但是，我们这个社会毕竟建立不久，还残留着旧社会遗留下来的许多痕迹；我们如何建成社会主义还缺乏经验。因此，在生活中反映出了各种各样急待解决的问题。究竟怎样去正确解决这些问题，就需要我们认真地进行探索。这种想法，现在是任何人都会承认的，是无可非议的。但是，在一九五七年，我基于这种想法，和当时江苏几位青年文学工作者公开筹组“探求者”文学社时，就由于这些主张被打成反党小集团。又因为反映这些主张的“探求者”启事是我执笔的，我就不得不硬着头皮去戴那顶附有紧箍咒的右派帽子。

我被剔出了文学队伍。我在“三十而立”的时候被打倒了。

前进是多么困难呀，那坎坷不平的路——

訳

その頃、私は、様々な形式の作品、詩であるとか、歌い物入りの講談、短篇小説、歌劇、映画の脚本等の書き方を勉強していた。その当時読者に喜ばれたのは短篇小説『解約』と大型の常錫文戯（地方劇の一つ：無錫灘簧—だんこう—と常州灘簧とが併さったもので、江蘇省南部および上海市に広くおこなわれる。一角川書店『中国語大辞典』『走上新路』（葉至誠との共作）であった。これらの作品は、基本的にはリアリズムの伝統を受け継いだものであって、反映していたのは社会主義の生活で、基調は明るさで、方向性は明確なものであった。またこれらの作品は、当時

の私の思想の単純さ、党と社会主義に対する心の底からの忠誠心も反映していた。しかし、人は常に進歩の過程にあるもので、政治思想の水準の高まりとともに、社会生活に対する理解の深まりとともに、私は、社会主義社会は現代の世界で最も美しい制度であり、無限の生命力を持つ制度ではあるのだけれども、私たちの今の社会は、作られて間もないものでしかなく、まだ古い社会から受け継いだ数多くの痕跡が残されている、私たちはどのようにして社会主義を確立するかについてはまだ経験不足であるのだ、ということ知り始めた。だから、生活の中には緊急に解決されなければならない問題が反映されており、どうしたらこれらの問題を正確に解決して行ったら良いのか、私たちは真摯に探求して行かなければならないのだ。このような考え方は、今では誰にでも受け入れられるもので、非難の余地がないものである。だが、一九五七年、私がこうした考え方に基づき、当時の江蘇省における文学の仕事に従事する数人の青年たちと“探求者”文学社を公然と企画し組織した際、これらの主張の故に反党グループとされてしまったのだ。更に、これらの主張を反映した“探求者”の呼びかけ文を私が執筆したため、私は、じっと我慢して例の三蔵法師が孫悟空を呪文で締め上げた金箍の付けられた右派の帽子をかぶらざるを得なかったのだ。

私は文学界から蹴り出された。“三十而立”という時、打倒された。

前進するということは何と難しいことか、何とでこぼこと歩きにくい道であることか！

また、《雨花》1957年第10期に掲載された「“探求者”文学月刊的章程和啓事」の編集者の注意書きによれば、この時の青年文学工作者は、「陳椿年、高曉声、葉至誠、方之、陸文夫、梅汝愷、曾華など」である。

(18)「三上南京」(p 73第18行)

(19) 錢淑珍は、父の3度目の妻、高曉声にとっては義母なのだが、彼女の弟の息子の妻であった。夫は娘を3人残して亡くなったため、高曉声と子連れで結婚した。

II 高晓声著作作品目录

太字：初出、□作者調查、○天野調查、その他：安徽師範大学 賈佑吉調查、※再確認済

1950年

- 1 收田財(短篇小说) 《文汇报》1950年(具体日期待查)

1951年

- 2 王善人(诗集) 新華書店華東總分店 1951年1月初版 ※
○目录：《『王善人』》、《洋地主》、《北周鄉六日》、《過去現在比比》、《慶豐收》、
《動員大會》、《搓繩》

1954年

- 3 解约(短篇小说) 《文艺月报》1954年第2期 ※
收入《短篇小说选(1953.9-1955.12)》人民文学出版社1956年2月第1版
《青年文学创作选集(2)》□中国青年出版社第1版
《江苏三十年短篇小说选》

1955年

- 4 走上新路(剧本) 与叶至诚合著 江苏人民出版社 1955年第1版 ※

1957年

- 5 不幸(短篇小说) 《雨花》1957年第6期 ※
- 6 意见和希望(笔谈“纱花齐放，百家争鸣”)(与方之、叶至诚、陈椿年合写)
□ 《雨花》1957年第6期 ※
- 7 “探求者”文学月刊的章程和启事 《雨花》1957年第10期

1979年

- 8 特别标记(短篇小说) 《雨花》1979年第2期 ※
- 9 “漏斗户”主(短篇小说) 《钟山》1979年第2期 ※
- 10 雪地花(中篇小说) 《紫琅》1979年第3期、第4期 ※
- 11 一支唱不完的歌(短篇小说) 《钟山》1979年第4期
- 12 流水泪泪(短篇小说) 《雨花》1979年第6期

- 13 李顺大造屋(短篇小说) 《雨花》1979年第7期
收入《短篇小说选(1949-1979)》(八)人民文学出版社1982年1月第1版
《中国当代文学作品选》(上册)河北人民出版社1981年11月第1版
《江苏三十年短篇小说选》
- 14 漫长的一天(短篇小说) 《人民文学》1979年第8期
- 15 拣珍珠(短篇小说) 《北京文艺》1979年第9期
- 16 柳塘镇猪市(短篇小说) 《雨花》1979年第10期
- 17 “也算经验” 《青春》1979年第11期
- 18 “不过如此” 《青春》1979年第11期
- 19 摆渡 《青春》1979年第11期
- 20 系心带(短篇小说) 《上海文学》1979年第11期
- 21 周华英求职(短篇小说) 《安徽文学》1979年第11期
《小说月报》1980年第2期
- 22 李顺大造屋(《钟山》文学丛书) 江苏人民出版社1979年10月第1版
目次:叶至诚《迟开的蔷薇》、
高晓声《李顺大造屋》、《陈奂生上城》、《我写小说,不过如此》

1980年

- 23 我的两位邻居(短篇小说) 《雨花》1980年第1期
- 24 痛悼方之(散文) 《北京文艺》1980年第1期
- 25 陈奂生上城(短篇小说) 《人民文学》1980年第2期
《小说月报》1980年第6期
收入短篇小说选集《陈奂生上城》甘肃人民出版社1981年第1版
《陈奂生上城》(农村通俗文艺读物丛书)福建人民出版社1982年第6月第1版
- 26 定风珠(短篇小说) 《钟山》1980年第3期
- 27 钱包(短篇小说) 《延河》1980年第5期
《小说选刊》1980年第1期
- 28 希望努力为农民写作 《文艺报》1980年第5期
- 29 关于《周华英求职》的通信 《安徽文学》1980年第5期
- 30 解放思想和文学创作 《群众》1980年第7期
- 31 争取更大的胜利—在作协江苏分会第二次代表大会上发言 《雨花》1980年第6期
- 32 且说陈奂生 《人民文学》1980年第6期 ※
- 33 《李顺大造屋》始末 《雨花》1980年第7期

- 34 生活和“天堂”(创作手札)《人民日报》1980年7月23日
- 35 曲折的路《四川文学》1980年第9期
- 36 在《雨花》编委学习“七一”社论座谈会的发言《雨花》1980年第9期 ※
- 37 谈谈文学创作—给青年作者小说讲习班的讲课《长江文艺》1980年第10期
- 38 生活、目的和技巧《星火》1980年第10期
- 39 山中(短篇小说)《安徽文学》1980年第11期
- 40 尸功记(短篇小说)《鸭绿江》1980年第11期
- 41 鱼钓(短篇小说)《雨花》1980年第11期
《小说月报》1981年第1期
- 42 写自己熟悉的人《文汇报》1980年11月21日
- 43 七九小说集 江苏人民出版社1980年6月第1版 ※
目次:《摆渡(代前言)》、《系心带》、《李顺大造屋》、《“漏斗户”主》、
《拣珍珠》、《周华英求职》、《漫长的一天》、《柳塘镇猪市》、
《特别标记》、《流水汨汨》、《雪地花》、《一支唱不完的歌》

1981年

- 44 宁静的早晨(短篇小说)《新观察》1981年第1期
- 45 陈家村趣事(短篇小说)《长城》1981年第1期
- 46 创作思想随谈(根据讲话记录整理)《上海文学》1981年第1期
- 47 扎根在生活的土壤里《文艺研究》1981年第1期
- 48 扎根在生活的土壤里《人民日报》1981年1月28日
- 49 极其简单的故事(短篇小说)《收获》1981年第2期
- 50 水东流(短篇小说)《人民日报》1981年2月21日
《小说月报》1981年第4期
收入《水东流》(农村文化站文学小丛书第一辑)四川人民出版社1981年10月第1版
《水东流》(《人民日报》农村题材短篇小说选)北京出版社1982年7月第1版
《1981短篇小说选》(中国文学作品年编)
中国社会科学出版社1982年12月第1版 ※
《短篇小说集》安徽人民出版社1984年10月第1版
《水东流》(连环画)有源改编 刘国辉绘《连环画报》1982年第8期
- 51 为“十有八九”服务《垦春泥》1981年第2期
- 52 寸步不离人一高晓声、陆文夫谈短篇小说创作《艺丛》1981年第2期
- 53 陈奂生转业(短篇小说)《雨花》1981年第3期

《小说月报》1981年第5期、《小说选刊》1981年第5期
收入《陈奂生转业》(农村文化站文学小丛书第三辑)

四川人民出版社1981年11月第1版

- 54 文学语言浅谈 《江南》1981年第3期
- 55 “青春奖”得奖小说简评 《青春》1981年第3期
- 56 大好人江坤大(短篇小说) 《花城》1981年第3期
- 57 飞磨(短篇小说) 《钟山》1981年第4期
- 58 读古典文学的一点体会 《文学研究》1981年第6期
- 59 水底障碍(短篇小说) 《雨花》1981年第7期
- 60 摆渡、船艄梦 《文汇》
- 61 崔全成(短篇小说) 《上海文学》1981年第10期
收入《1981短篇小说选》(中国文学作品年编)
中国社会科学出版社1982年12月第1版
- 62 短篇小说创作谈论一在“青春奖”授奖大会后和青年作者的谈话
《青春》81年第11期
- 63 改革和创作(杂文) 《随笔》1981年第17集
- 64 高晓声一九八〇年小说集 人民文学出版社1981年8月第1版 ※
目次:《船艄梦(代前言)》、《我的两位邻居》、《陈奂生上城》(附《“漏斗户”主》)、
《钱包》、《定风珠》、《山中》、《尸功记》、《鱼钓》、《宁静的早晨》、
《极其简单的故事》、《陈家村趣事》
- 65 创作谈 花城出版社1981年12月第1版 ※
目次:《前言》、《摆渡》、《也算“经验”》、《解放思想和文学创作》、《且说陈奂生》、
《生活和“天堂”》、《希望努力为农民写作》、《〈李顺大造屋〉始末》、
《曲折的路》、《谈谈文学创作》、《生活、目的和技巧》、《创作思想随谈》、
《扯谈及其他》、《为“十有八九”服务》、《扎根在生活的土壤里》、
《“青春奖”得奖小说简评》

1982年

- 66 刘宇写出(短篇小说) 《小说界》1982年第1期
- 67 陈奂生奇遇记(电影剧本)(与???著) 《萌芽·增刊》1982年第1期
- 68 短篇小说创作漫谈 《江海学刊》1982年第1期
- 69 绳子(短篇小说) 《雨花》1982年第2期
- 70 访美杂谈(散文) 《钟山》1982年第2期、第3期

- 71 陈奂生包产(短篇小说) 《人民文学》1982年第3期
- 72 书外春秋 《花城》1982年第3期
- 73 心狱(短篇小说) 《文汇》1982年第3期
- 74 谈谈有关陈奂生的几篇小说 《文艺理论研究》1982年第3期
- 75 且说文学的讲评 《北京师院学报》1982年第4期
- 76 也给豆腐唱颂歌(散文) 《上海文学》1982年第5期
- 77 自勉的话 《青春》1982年第5期
- 78 磨牙(短篇小说) 《钟山》1982年第6期
- 79 水东流、不回头(短篇小说) 《小说林》1982年第6期
- 80 鱼的故事(短篇小说) 《芳草》1982年第8期
- 81 我的第一篇小说 《山西文学》1982年第9期
- 82 陌生人(短篇小说) 《海鸥》1982年第10期
- 83 大山里的故事(短篇小说) 《人民文学》1982年第10期
- 84 读《墙》小记 《青春》1982年第10期
- 85 老友相会(短篇小说) 《上海文学》1982年第11期
- 86 高晓声一九八一年小说集 人民文学出版社1982年12月第1版 ※
目次:《水东流》、《陈奂生转业》、《大好人江坤大》、《水底障碍》、《崔全成》、
《刘宇写书》、《心狱》、《飞磨》、《绳子》

1983年

- 87 丢在哪儿(短篇小说) 《雨花》1983年第1期
- 88 泥脚(短篇小说) 《收获》1983年第1期
- 89 高晓声、苏叔阳、陆文夫谈创作——记本刊编辑部的一次座谈会 《芳草》1983年第1期
- 90 买卖(短篇小说) 《滇池》1983年第2期
- 91 想起了樵夫拾柴——《告别校园的时候》读后 《青春》1983年第2期
- 92 秦蜀行随拾(散文) 《随笔》1983年第3期、第4期
- 93 在《青春》常熟小说改稿讲习班上的讲话 《青春》1983年第3期
- 94 一诺千里(短篇小说) 《小说界》1983年第4期
- 95 糊涂(中篇小说) 《花城》1983年第3期
- 96 蜂花(中篇小说) 《收获》1983年第5期
- 97 旅途拾零(散文) 《花城》1983年第5期
- 98 开拓眼界 《小说林》1983年第7期
- 99 作品总在表现作家 《雨花》1983年第8期

- 100 太平无事(短篇小说) 《福建文学》1983年第9期
- 101 漫谈小说创作 《福建文学》1983年第9期
- 102 注意反映农村生活的复杂性 《作家》1983年第10期
- 103 “聪明人”(中篇小说) 《上海文学》1983年第11期
- 104 要发现生活的新意—高晓声答问 《文学报》1983年11月10日
- 105 陈奂生 花城出版社1983年4月第1版
目次:《前言》、《“漏斗户”主》、《柳塘镇猪市》、《陈奂生上城》、《陈奂生转业》、
《陈奂生包产》、《书外春秋》
- 106 ○高晓声1982年小说集 四川人民出版社1983年9月第1版 ※
目次:《鱼的故事》、《陈奂生包产》、《书外春秋》、《大山里的故事》、
《老友相会》、《磨牙》、《丢在哪儿》、《泥脚》、《陌生人》、《买卖》
- 107 高晓声小说选 人民文学出版社1983年10月第1版 ※
目次:《序》、《系心带》、《李顺大造屋》、《漫长的一天》、《周华英求职》、
《拣珍珠》、《柳塘镇猪市》、《“漏斗户”主》、《陈奂生上城》、《陈奂生转业》、
《极其简单的故事》、《陈家村趣事》、《大好人江坤大》、《崔全成》、《水东流》

1984年

- 108 □快乐(短篇小说) 《现代作家》1984年第1期 ※
- 109 □闹地震(中篇小说) 《星火》1984年第2期 ※
- 110 □铨根老汉(短篇小说) 《文汇》1984年第3期 ※
- 111 □跌跤姻缘(中篇小说) 《花城》1984年第5期 ※
- 112 □极其麻烦的故事(中篇小说) 《钟山》1984年第6期 ※
- 113 □陈继根癖(短篇小说) 《上海文学》1984年第7期 ※
- 114 □荒地岸边柳枝青(中篇小说) 《雨花》1984年第8期 ※
- 115 □杭家沟(短篇小说) 《作家》1984年第4期 ※
- 116 □高晓声1983年小说集 中国文联出版公司1984年12月第1版 ※
目次:《太平无事》、《“聪明人”》、《糊涂》、《蜂花》、《快乐》、《闹地震》、
《一诺万里》、《漫谈小说创作》

1985年

- 117 □礼花(短篇小说) 《大西南文学》1985年第2期 ※
- 118 □生活·思考·创作—在江苏部分青年作家作品讨论会上的发言
《雨花》1985年第2期 ※

119 □就教于世界文学研究者(文学意见) 《当代外国文学》1985年第2期

120 □沉重的担子(作家论坛) 《当代文艺探索》1985年第3期

121 □与朋友交(散文) 《雨花》1985年第3期

122 □生活的交流(散文) 《中国作家》1985年第3期

翠苑、太湖文艺、大风等另有一、二篇?

123 □临近终点站(短篇小说) 《小说界》1985年第5期 ※

124 □吹泡泡(小小说) 《长江》1985年第5期 ※

125 □送田(短篇小说) 《钟山》1985年第6期 ※

126 □恽门家事(短篇小说) 《清明》1985年第6期

127 □觅(中篇小说) 《中国作家》1985年第6期

1986年

128 ○高晓声1984年小说集 中国文联出版公司1986年3月第1版 ※

目次:《跌宕姻缘》、《铨根老汉》、《荒池岸边柳枝青》、《陈继根癖》、

《极其麻烦的故事》、《重到白荡乡》、《杭家沟》、《生活·思考·创作(后记)》

129 ○生活·思考·创作(文学论文集)《上海文艺出版社》1986年8月第1版 ※

目次:《曲折的路》、《我的第一篇小说》、《且说陈奂生》、《〈陈奂生〉前言》、

《〈李顺大造屋〉始末》、《关于〈周华英求职〉的通信》、《也算“经验”》、

《谈谈文学创作》、《答南宁作者问》、《扎根在生活土壤里》、《生活和“天

堂”》、《生活、目的和技巧》、《生活·思考·创作一在江苏部分青年作家作

品讨论会上的发言》、《作文和文学创作》、《漫谈小说创作》、《与连云港市业

余作者和教师进修学院学员谈创作》、《在〈青春〉小说改稿讲习班上的讲话》、

《就教于世界文学研究者》、《希望努力为农民写作》、《为“十有八九”服务》、

《注意反映农村生活的复杂性》、《开拓眼界》、《与朋友交》、《“青春奖”得

奖小说简评》、《读〈墙〉小记》、《读古典文学的一点体会》、《且说文学的讲

评》、《解放思想和文学创作》、《扯谈及其他》、《沉重的担子》、《摆渡》

130 □使我难以忘却的事情(散文) 《随笔》1986年第2期

131 □往事不堪细说(散文) 《随笔》1986年第3期

132 □天公在此先作模(散文) 《现代人报》

133 □正邪冰炭二十年一纪念先辈吴天石 《人物》1986年第1期

134 □颜色篇(散文三篇) 《纺工报》

135 □想起儿时家中书 《新民晚报》

136 □是是非非, 编创关系 《杂家》1986年第4期

1987年

- 137 巨灵大人(短篇小说) 《花城》1987年第1期
- 138 南海纪行(散文) 《花城》1987年第3期
- 139 西海行(散文) 《纺工报》1987年10月
- 140 新世说(? 故二十余篇) 《雨花》1987年? 第10期
《东方记事》1987年第7期、第8期
- 141 文学与酒(散文) 《雨花》1987年第11期
- 142 谈看景色评看人(散文) 《雨花》1987年第12期
- 143 走神(短篇小说)
- 144 生活的交流(散文集) 中国文联出版公司1987年4月第1版 ※

目次:《摆渡(代前言)》、《船舫梦(代前言)》、《我们都上去了》、《初中二年半》、
《访美杂谈》、《也给豆腐唱颂歌》、《三上南京》、《访军杂记》、《秦蜀行随
拾》、《错觉》、《与朋友交》、《出门穿着难》、《古人和今人》、《旅程路漫漫》、
《大佛小佛小小佛》、《峨眉山下历险记》、《天南地北走马看》、《三江都安
我心宽》、《补游天堂一只角》、《我的家乡金三角》、《都在繁荣起来》、《龙
母和乌龟》、《菩萨和塑匠》、《旅途拾零》、《想起儿时家中书》、《往事不堪
细说》、《天公在此先作模》、《正邪冰炭二十年一纪念先辈吴天石》、《第一
次来》、《我指望那条碧波清水》、《颜色篇》、《颜色篇 新房新依靠色新》、
《颜色篇 续篇》、《海一般的家庭工厂》、《是是非非, 编创关系》

- 145 高晓声代表作(小说选集) 中国现代著名作家文库 黄河出版社1987年5月第1版 ※
- 目次:《前言》伊骐、短篇小说《李顺大造屋》、《拣珍珠》、《周华英求职》、《“漏
斗户”主》、《陈奂生上城》、《陈奂生转业》、《陈奂生包产》、《书外春秋》、
《钱包》、《鱼钓》、《陈家村趣事》、《水东流》、《大好人江坤大》、《崔全成》、
《老友相会》、《泥脚》、中篇小说《荒池岸边柳枝青》、《极其麻烦的故事》、
《高晓声主要作品目录》
- 146 高晓声小说集 中国文学出版社1987年

1988年

- 147 火和烟(短篇小说) 《上海文学》1988年第1期
- 148 机缘(短篇小说) 《天津文学》1988年第1期
- 149 小岛春节(短篇小说)
- 150 沟沟(短篇小说) 《太湖》
- 151 老清阿叔(短篇小说) 《钟山》1988年第1期

- 152 □新娘没有来(短篇小说)《花城》1988年第1期
153 □青天在上(长篇小说)《小说界·长篇小说》1988年第2期
154 □三个菩萨(文艺杂文)

1991年

- 155 ○陈奂生战术一系列短篇之五(短篇小说)《钟山》1991年1月 ? 《新地》※
156 ○青天在上(长篇小说) 上海文艺出版社1991年2月第1版 ※
157 ○种田大户一系列短篇之六(短篇小说)《钟山》1991年第3期 ※
158 ○陈奂生出国(中篇小说)《上海小说界》1991年第4期 ※
159 ○陈奂生上城出国记 上海文艺出版社1991年12月第1版 ※
目次:《“漏斗户”主》、《上城》、《转业》、《包产》、《战术》、《种田大户》、《出国》、
《后记》

1993年

- 160 ○新娘没有来 华艺出版社1993年4月第1版 ※
目次:《序》夏衍、《作者的话》、《机缘》、《沟沟》、《新娘没有来》、《美国经验》
《老清阿叔》、《巨灵大人》、《火和烟》、《村子里的风情》、《天意》、《小島
春节》、《幸运儿》、《小小说五则—烟鬼·钱结·忧愁·外国话·希奇》、《走
神》、《灾难古龙镇》、《触雷》

1994年

- 161 ○高晓声 中国当代作家选集丛书 人民文学出版社1994年6月北京第1版 ※
目次:《自序》、小说《解约》、《不幸》、《系心带》、《李顺大造屋》、《“漏斗户”
主》、《陈奂生上城》、《我的两位邻居》、《钱包》、《鱼钓》、《水东流》、
《飞磨》、《绳子》、《鱼的故事》、《泥脚》、《老清阿叔》、《送田》、《临近终
点站》、《美国经验》、《灾难古龙镇》、《跌跤姻缘》、《觅》、《天意》、《烟鬼》、
《梦大》、散文《无字碑》、《壶边天下》、《摆渡》、《船艄梦》、《三个菩萨》、
《草塘闹鱼》、《野鸭篇》、《鱼趣》、《附录 主要作品目录》

1995年

- 162 ○高晓声幽默作品自选集 漓江出版社1995年6月第1版 ※
目次:《钱往哪儿跑(代序)》、小说《陈奂生上城》、《李顺大造屋》、《大好人江坤
大》、《大山里的故事》、《聪明人》、《杭家沟》、《闹地震》、《绳子》、《鱼钓》、

《山中》、《太平无事》、《陈继根癖》、《老友相会》、《尸功记》、《买卖》、
《吹泡泡》、《烟鬼》、《钱结》、《忧愁》、《外国话》、《希奇》、《陈免生出国》、
散文《刃的怀念》、《壶边天下》、《烟囱世界》、《船艄梦(附:摆渡)》、《出门
穿着难》、《住的遐想》、《意外效果》、《难免上当》、《是是非非,编创关系》、
《总是无缘》、《土结疙瘩》、《无字碑》、幽默小品:新世说《沈师母在家吗》、
《二毛钱》、《大喉咙》、《多走了一步》、《留用人员》、《第三十七行》

以下的作品具体消息待查

163 ○壶边天下 ※

164 ○幸运儿 ※

165 ○触雷 ※

166 ○村子里的风情 ※

167 ○高晓声美国来信 ※(一)1988年6月1日—(1988年6月25日报纸上发表)

(二)6月 3日□(三)6月 5日□(四)6月 7日 (五)6月 9日 (六)6月12日

□ (七) 6月15日 (八)6月17日□(九)6月17日夜 (十)6月18日 (十一)6月18日深夜□

(13—十二的笔误?) 6月19日 (十三)6月19日 (十四)6月20日 (十五)6月21日

(十六)6月21日 (十七)6月22日(十八)6月23日 (十九)6月24日 (二十)6月25日

(二十一)6月26日 (二十二)、(二十三)、(二十四) 这些文章还没拿到

(二十五) 6月29日 (二十六)6月30日

168 ○烟囱的世界 ※

169 ○烟鬼 ※

170 ○天意 ※

171 ○灾难古龙镇 ※

172 ○美国经验 ※

1998年

173 ○这儿有黄金(短篇小说)(附创作谈) 《钟山》1997年第4期 ※

174 ○江心洲——一个当代的童话(散文) 《钟山》1998年第2期 ※

175 ○惊魂(短篇小说) 《钟山》1998年第6期 ※

1999年

176 ○正欲洗手上岸时 《人民文学》6月号

177 ○高晓声散文自选集